

2025年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
121112037	カラーコーディネート	山中 マキ			2	選択	1前期

科目の概要

DP3に記載している、ライフスタイルのデザインを提案するために必要な衣・食・住および地域活性に関連する専門的知識・技能を身に付けて地域再生に貢献することができ、自立した社会人として、常に自己研鑽に取り組み、自らの可能性を高めて社会に貢献することができるカラーコーディネーターの育成を目指す。 そのために、この科目では、色の持つ物理的側面・心理的側面・デザインの側面を系統的に学び、それぞれの目的によって客観的に色彩を使いこなせる実践能力を習得する。
なお、色彩検定3級レベルの知識を習得することを目的とする。

学修内容	到達目標
① 色彩の本質を物理的な視点から理解し、客観的に色彩選択ができることを目的とする ② 色彩を感じ取る人間側について理解し、的確な色彩選択ができることを目的とする ③ 色彩を組み合わせた場合の効果について理解し、適材適所な色彩選択ができることを目的とする ④ 講義で学んだ内容を、配色カードを用いて自ら表現できるようになることを目的とする ⑤ 市場に流通している商品の色彩分析の仕方を理解する	① 色彩の本質を物理的な視点から理解することができ、客観的な色彩選択ができる ② 色彩を感じ取る人間側について理解することができ、的確な色彩選択ができる ③ 色彩のデザインの側面を理解することができ、適材適所な色彩選択ができる ④ 自ら配色カードを使用し、講義で理解した内容を色で表現することができる ⑤ 市販されている商品の色彩分析をし、なぜその色が用いているのかを考察することができる

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性	単にテキストを丸暗記するだけでなく、学んだことを実社会に応用できるよう常に意識することができる
	働きかけ力	理解できない内容があった場合、それを質問することができる
	実行力	期限までに提出課題を仕上げる為に、目標を決め最後までやりきることができる
考え抜く力	課題発見力	生活の中で出会う様々な色彩を常に意識し、疑問や課題を持ちながら授業に臨むことができる
	計画力	提出課題の期限に合わせ、計画的に進めることができる
	創造力	学んだ基礎知識を課題提出や作品に応用し、自ら考えて創造することができる
チームで働く力	発信力	提出課題や作品では求められている色彩表現を、誰もが分かりやすく客観的に行うことができる
	傾聴力	グループワークや意見交換の場では、他者の意見を確認し、さらに自分の意見を述べることができる
	柔軟性	自分と他者の作った配色の違いを通し、自他共に感性や考えの違い等を受け入れることができる
	状況把握力	自分が行ったことで周囲にどのような影響を及ぼすのか考え、最良の結果が出せるよう取り組むことができる
	規律性	無断欠席、遅刻、居眠り、私語など講義に支障をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる
	ストレスコントロール力	思い通りにいかずイライラしたり落ち込んだりしても、長く引きずることなく次へ進むことができる

テキスト及び参考文献

■色彩検定公式テキスト3級編（内閣府認定公益社団法人色彩検定協会：ISBN978-4-909928-03-0）2,420円（税込）
 ■新配色カード199a（日本色研事業）1,375円（税込）
 ※他に工作用のハサミとノリを各自持参

他科目との関連、資格との関連

（他科目との関連） この科目は「空間・情報デザインの科目群」に位置し、「ファッションデザイン」「インテリアデザイン」「デジタルデザイン」の基盤の一部となる

学修上の助言	受講生とのルール
【予習】事前に講義内で使用するプリントを配布するので、予習としてキーワードをテキストから読み取り記入した上で授業に臨むこと。 【復習】毎週授業後に配布するプリントで復習すること。解答はまとめて期末に回収し、評価の対象とする。 【講義】授業内で完成できなかった課題プリントは宿題とする。	・社会人基礎力を自ら積極的に身に付けようとする姿勢で臨むこと ・欠席者はClassroomにアップする当日の内容を元に配布プリントの重要ポイントを記入し、翌週の授業に臨むこと。 ・テキスト、配布資料、配色カード、ハサミとノリは各自が毎時間持参すること

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
	平常評価	小テスト	30	①	✓			■小テスト ＜全2回、授業内で実施＞ ★PCCS ①「色相」・②「トーン」 ・配色を考える上で必要不可欠となるPCCSのシステムを獲得する（50%） ・PCCSのシステムを使用し、目的に合った配色を作るなどの活用ができる（30%） ・PCCSのシステムを使用し、問題のある既存の配色に対する改善策を提案するなど解決に役立てることができる（20%）
				②	✓			
				③	✓			
				④				
				⑤				
		レポート	55	①	✓			■課題①「対比」 ■課題②「色彩調和」 ■課題③「配色イメージ」 ＜全3回、授業内及び課題として実施＞ ★授業で学んだ配色方法をもとに、与えられた条件に合う色を自ら選んだ配色カードで表現する ・配色による様々な効果を獲得する（30%） ・学習した配色の効果を理解した上で、条件に合った配色を自ら作り活用ができる（40%） ・問題のある既存の配色に対し、改善策を提案するなど解決に役立てることができる（30%） ■復習プリント①～⑤ ＜全10回、課題として自宅で実施＞ ・授業で学習した内容を確実に定着させ獲得する（50%） ・授業で学習した内容を自分の生活に応用し活用ができる（30%） ・授業で学習した内容をもとに、問題のある色彩の改善策を考え解決ができる（20%）
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤				
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	5	①				■パッケージの色彩分析・考察 ＜全1回、オンデマンドで実施＞ ・分析と考察を繰り返すことで配色のパターンを獲得する（30%） ・既存のパターン＋自分のオリジナリティを加え、目的に合った配色を作るなど活用することができる（30%） ・問題のある既存の配色に対する改善策を提案するなど解決に役立てることができる（40%）
				②				
				③				
				④				
				⑤	✓			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			(主体性) 単にテキストを丸暗記するだけでなく、学んだことを実社会に応用できるよう常に意識することができる (働きかけ力) 理解できない内容があった場合、それを質問することができる (実行力) 期限までに提出課題を仕上げる為に、目標を決め最後までやりることができる (課題発見力) 生活の中で出会う色彩を常に意識し、疑問や課題を持ちながら授業に臨むことができる (創造力) 学んだ基礎知識を課題提出や作品に応用し、自ら考えて創造することができる (発信力) 提出課題や作品では求められている色彩表現を、誰もが分かりやすく客観的に行うことができる (傾聴力) グループワークや意見交換の場では、他者の意見を確認し、さらに自分の意見を述べる (柔軟性) 自分と他者の作った配色の違いを通し、自他共に感性や考えの違い等を受け入れることができる (状況把握力) 自分が行ったことで周囲にどのような影響を及ぼすのか考え、最良の結果が出せるよう取り組むことができる (規律性) 無断欠席、遅刻、居眠り、私語など講義に支障をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる (ストレスコントロール力) 思い通りにいかずイライラしたり落ち込んだりしても、長く引きずることなく次へ進むことができる	
			②	✓				
			③	✓				
			④	✓				
			⑤	✓				
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
■ S（秀）の基準：総合得点が100～90点 ①小テスト：色の分類方法を完全に理解し、理論的に説明することができる（正解率9割以上） ②レポート：【提出課題①～③】与えられた条件に合う色を自ら配色カードから選択し、美しく貼ることができる 【復習プリント】正解率9割以上 ③成果発表：これまで学習してきた内容を用い、色彩を客観的に分析および考察することができる （使用されている色の抽出、面積比、イメージマップへのプロット、配色技法とその効果、ターゲットの推測が全て完成されている。さらにそれをテキストの記述を応用した自分の言葉で分かりやすく説明することができる） ■ A（優）の基準：総合得点が89～80点 ①小テスト：色の分類方法をほぼ理解し、理論的に説明することができる（正解率8～9割） ②レポート：【提出課題①～③】与えられた条件に合う色を自ら配色カードから選択し、丁寧に貼ることができる 【復習プリント】正解率8～9割 ③成果発表：これまで学習してきた内容を用い、色彩を分析および考察することができる （使用されている色の抽出、面積比、イメージマップへのプロット、配色技法とその効果、ターゲットの推測がおおむね完成されている。さらにそれをテキストにある言葉を用い説明することができる）	■ B（良）の基準：総合得点が79～70点 ①小テスト：色の分類方法をだいたい理解し、答えを選択肢の中から選ぶことができる（正解率7～8割） ②レポート：【提出課題①～③】与えられた条件に合う色を自ら配色カードから選択し、確認して貼ることができる 【復習プリント】正解率7～8割 ③成果発表：これまで学習してきた内容を用い、色彩を分析および考察することができる （使用されている色の抽出、面積比、イメージマップへのプロット、配色技法とその効果、ターゲットの推測のうち、空欄の箇所がないこと） ■ C（可）の基準：総合得点が69～60点 ①小テスト：色の分類方法を理解しようと努力している（正解率6～7割） ②レポート：【提出課題①～③】与えられた条件に合う色を配色カードから選択し、貼ることができる 【復習プリント】正解率6～7割 ③成果発表：これまで学習してきた内容を用い、色彩を分析および考察することができる （使用されている色の抽出、面積比、イメージマップへのプロット、配色技法とその効果、ターゲットの推測のうち、7割以上は埋めてあること）

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
1	■ガイダンス ・色彩を学ぶ意義 ・色彩検定の紹介 ■色が見える仕組み① ・色知覚の三要素のうち、『光』『物体』の性質について学ぶ	■講義 : テキストに沿った内容で説明しながら、プリントに重要語句を記入する ■実験 : 回折格子を用い、白色光を分光してスペクトルを確認する ■質疑 : GoogleClassroomにて対応	・配布プリントに重要語句を記入できる ・『光』『物体』の性質について理解できる	■予習 : テキストP6～18を読み、講義用プリント(1)～(4)にキーワードを記入して授業に臨むこと ■復習 : 復習プリント①	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 規律性
2	■色が見える仕組み② ・色知覚の三要素のうち、『視覚』の性質について学ぶ ・『照明』の種類と色の見え方の関係を知る	■講義 : テキストに沿った内容で説明しながら、プリントに重要語句を記入する ■実験 : 自らの眼で盲点を確認し、脳が視覚に及ぼす影響について理解する ■質疑 : GoogleClassroomにて対応	・配布プリントに重要語句を記入できる ・『視覚』の性質について理解できる ・『照明』の違いによって物体の色の見え方が変化するメカニズムを理解できる	■予習 : テキストP19～23を読み、講義用プリント(5)～(8)にキーワードを記入して授業に臨むこと ■復習 : 復習プリント②	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 規律性
3	■色が見える仕組み③ ・『混色』の種類とメカニズムを理解する	■講義 : テキストに沿った内容で説明しながら、プリントに重要語句を記入する ■実験 : 混色実験(LEDで三原色を用いた同時加法混色、簡易顕微鏡を用いた併置加法混色、回転コマを用いた継時加法混色、カラーフィルムを用いた減法混色)を通し、混色の原理と応用方法を学ぶ ■質疑 : GoogleClassroomにて対応	・配布プリントに重要語句を記入できる ・混色の原理と、実際の活用方法について理解できる	■予習 : テキストP24～30を読み、講義用プリント(9)～(12)にキーワードを記入して授業に臨むこと ■復習 : 復習プリント③	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 規律性
4	■色の表し方① ・『慣用色名』について学ぶ ・『表色系(色の三属性)』について理解する	■講義 : テキストに沿った内容で説明しながら、プリントに重要語句を記入する ■実習 : 配色カードを使用し、色の三属性(色相、明度、彩度)について理解する ■質疑 : GoogleClassroomにて対応	・配布プリントに重要語句を記入できる ・色を言葉、記号、数値で表す方法を理解できる	■予習 : テキストP128～139、p32～38を読み、講義用プリント(13)～(16)にキーワードを記入して授業に臨むこと ■復習 : 復習プリント④	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
5	■色の表し方② ・『PCCS(日本色研配色体系)＜色相＞』について学ぶ	■講義 : テキストに沿った内容で説明しながら、プリントに重要語句を記入する ■実習 : 配色カードでPCCS色相環を作成し、PCCSの特徴をつかむ ■質疑 : GoogleClassroomにて対応	・配布プリントに重要語句を記入できる ・PCCSの概要、色相について理解できる	■予習 : テキストP39～41を読み、講義用プリント(17)～(19)にキーワードを記入して授業に臨むこと ■復習 : PCCS色相環を覚える(次週小テスト実施)	180	主体性 働きかけ力 実行力 規律性
6	■色の表し方③ ・『PCCS(日本色研配色体系)＜明度・彩度・トーン＞』について学ぶ	■小テスト実施 「PCCS色相」 ■講義 : テキストに沿った内容で説明しながら、プリントに重要語句を記入する ■実習 : 配色カードでPCCSトーン図を作成し、PCCSの特徴をつかむ ■質疑 : GoogleClassroomにて対応	・配布プリントに重要語句を記入できる ・PCCSの明度・彩度・トーンについて理解できる	■予習 : テキストP42～48を読み、講義用プリント(18)にキーワードを記入して授業に臨むこと ■復習 : ・PCCSトーンを覚える(次週小テスト実施) ・復習プリント⑤	180	主体性 働きかけ力 課題発見力 傾聴力 規律性
7	■色の心理効果 ・『寒・暖/進出・後退/膨張・収縮/硬・軟/軽・重/興奮・鎮静/派手・地味』 ・『色の連想と象徴』について学ぶ	■小テスト実施 「PCCSトーン」 ■講義 : テキストに沿った内容で説明しながら、プリントに重要語句を記入する ■事例 を画像で紹介・解説する ■質疑 : GoogleClassroomにて対応	・配布プリントに重要語句を記入できる ・色の持つ心理的な効果を理解でき、その元に連想や象徴があることを理解できる	■予習 : テキストP50～57を読み、講義用プリント(23)～(24)にキーワードを記入して授業に臨むこと ■復習 : 復習プリント⑥	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 規律性 ストレスコントロール力
8	■色の視覚効果① ・『補色残像』 ・『明度対比、彩度対比、色相對比、補色対比』について学ぶ	■講義 : テキストに沿った内容で説明しながら、プリントに重要語句を記入する ■実習 : 配色カードを使用し、様々な対比が起こるパターンを作成する ⇒ 提出課題①「対比」作成 ■質疑 : GoogleClassroomにて対応	・配布プリントに重要語句を記入できる ・人間の知覚特性について理解できる	■予習 : テキストP58～61を読み、講義用プリント(25)～(28)にキーワードを記入して授業に臨むこと ■復習 : 提出課題①「対比」 ※授業内で完成できなかった分を宿題とする	180	主体性 働きかけ力 課題発見力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
9	■色の視覚効果② ・『色陰現象、縁辺対比、同化、面積効果、主観色』 について学ぶ	■講義 ：テキストに沿った内容で説明しながら、プリントに重要語句を記入する ■実習 ：配色カードを使用し、様々な対比が起こるパターンを作成する⇒提出課題①「対比」作成 ■実験 ：ペンハムトップを使用し、『主観色』を観察 ■質疑 ：GoogleClassroomにて対応	・配布プリントに重要語句を記入できる ・色陰現象、縁辺対比、同化、面積効果、主観色について理解できる ・提出課題①「対比」を完成し提出することができる	■予習 ：テキストP62～67を読み、講義用プリント(28)(29)にキーワードを記入して授業に臨むこと ■復習 ：復習プリント⑦	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 規律性 ストレスコントロール力
10	■色彩調和① ・『4つの原理』 ・『色相を手がかりにした配色』 色を組み合わせることで生まれる美しさの法則と各々の印象を学ぶ	■講義 ：テキストに沿った内容で説明しながら、プリントに重要語句を記入する ■実習 ：配色カードを使用し、条件に沿って自ら配色を作る⇒提出課題②「色彩調和」作成 ■質疑 ：GoogleClassroomにて対応	・配布プリントに重要語句を記入できる ・色彩調和の伝統的な考え方を理解できる	■予習 ：テキストP70～83を読み、講義用プリント(31)(32)にキーワードを記入して授業に臨むこと ■復習 ：提出課題②「色彩調和」※授業内で完成できなかった分を宿題とする	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 規律性 ストレスコントロール力
11	■色彩調和② ・『トーンを手がかりにした配色』 配色のルールを学ぶことで、客観的にイメージにあった配色を作ることができるようになる	■講義 ：テキストに沿った内容で説明しながら、プリントに重要語句を記入する ■実習 ：配色カードを使用し、条件に沿って自ら配色を作る⇒提出課題②「色彩調和」作成 ■質疑 ：GoogleClassroomにて対応	・配布プリントに重要語句を記入できる ・色相とトーンを組み合わせ、目的に合った配色を作ることができる	■予習 ：テキストP84～91を読み、講義用プリント(32)(33)にキーワードを記入して授業に臨むこと ■復習 ： ・提出課題②「色彩調和」※授業内で完成できなかった分 ・復習プリント⑧	180	主体性 働きかけ力 課題発見力 創造力 発信力 柔軟性 規律性
12	■色彩調和③ ・『アクセントカラー、セパレーションカラー、グラデーション』 ■『ファッションと色彩』 ・それぞれの技法の効果や印象を理解し、ファッションにおける活用方法を学ぶ	■講義 ：テキストに沿った内容で説明しながら、プリントに重要語句を記入する ■実習 ：配色カードを使用し、条件に沿って自ら配色を作る⇒提出課題②「色彩調和」作成 ■質疑 ：GoogleClassroomにて対応	・配布プリントに重要語句を記入できる ・基本的な配色技法を学び、目的に合った色彩を選ぶことができる ・ファッションにおいてどのように色彩が活用されているかを理解することができる ・提出課題②「色彩調和」を完成し提出することができる	■予習 ：テキストP92～97、p110～115を読み、講義用プリント(34)～(37)にキーワードを記入して授業に臨むこと ■復習 ：復習プリント⑨	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 創造力 規律性 ストレスコントロール力
13	■配色イメージ ・受けるイメージの違いを、色の三属性やトーンから考える	■講義 ：テキストに沿った内容で説明しながら、プリントに重要語句を記入する ■実習 ：配色カードを使用し、学んだ内容に基づいて様々なイメージを自ら作成する⇒提出課題③「配色イメージ」作成 ■質疑 ：GoogleClassroomにて対応	・配布プリントに重要語句を記入できる ・色の持つイメージを理解し、思い通りのイメージを配色で表現することができる ・提出課題③「配色イメージ」を完成し提出できる	■予習 ：テキストP104～107を読み、講義用プリント(38)(39)にキーワードを記入して授業に臨むこと ■復習 ：提出課題③「配色イメージ」の完成	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 規律性 ストレスコントロール力
14	■色彩分析実習 ・市販されている商品パッケージの色彩分析と考察	■講義 ：オンデマンド方式で行う ■実習 ：説明に従い、自分が選んだ商品パッケージの分析を行う⇒分析シートはプレゼンテーション課題とし、提出する ■質疑 ：GoogleClassroomにて対応 ■フィードバック ：提出された課題は講師から評価とコメントを添えて個別に返却 ※イメージ分析の際に用いる参考資料として：日本カラーデザイン研究所「イメージスケール」⇒ http://www.ncd-ri.co.jp	・市販されている商品のパッケージ分析を通し、デザインの意図を探り、ターゲットを推測することができる ・分析結果をA4のプレゼンテーションシートにまとめ、写真を撮ってClassroomに提出することができる	■予習 ：市販されているお菓子を購入する際、店頭に置かれている状況(ライバル商品・シリーズ商品の色など)をリサーチする ■復習 ：提出課題だけで終わらず、常に目に入る色に対して分析と考察を行い、それを応用して実生活に取り入れる	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
15	■『インテリアと色彩』 ・インテリアにおいて、これまで学修してきた内容がどのように活用されているかを学ぶ	■講義 ：テキストに沿った内容で説明しながら、プリントに重要語句を記入する ■講義 ：実例紹介と解説 ■質疑 ：GoogleClassroomにて対応	・配布プリントに重要語句を記入できる ・これまで学習してきた内容がどのようにインテリアにおいて活用されているかを理解できる ・復習プリント①～⑩を全て解答し、提出することができる	■予習 ：テキストP118～125を読み、講義用プリント(40)～(43)にキーワードを記入して授業に臨むこと ■復習 ：復習プリント⑩	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 発信力 規律性 ストレスコントロール力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力